

令和元年度

「大学生の力を活用した集落復興支援事業」

会津若松市 大戸地区

会津大学短期大学部 OOTOプロジェクト

小澤夢芽・後藤悠衣
大久保柚那・篠木友愛



目次

1. 大戸地区の概要と問題意識
2. 活動スケジュール
3. 現地調査とパイロット事業
4. 講座 & ワークショップ
5. 住民アンケート調査
6. 活性化のシナリオ



1. 大戸地区の概要

➤ 土地面積 : 59,644km²

➤ 人口 (H31/4) : 1,480人
 うち20歳未満 : 130人

➤ 世帯数 (R 2 / 1) : 681世帯

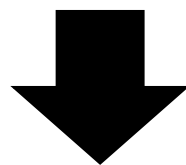
➤ 高齢化率 (H31/4)

- ・ 大戸地区 : 47.8%
- ・ 会津若松市全体 : 30.2%



問題意識

- 大戸地区には、温泉街があり、稲作、果樹栽培がおこなわれていたり、豊かな自然資源に恵まれている
- 一方、地域の人口は、10年で404人（16.4%）減少し、少子高齢化が進んでおり、農業後継者不足や、竹林の荒廃、コミュニティ機能の低下が問題となっている



まずは、大戸地区の『竹』を使った取り組みを地域の皆さんと一緒に進めていく中で、地域の活性化について考えていきたい

2.活動スケジュール

6月20日 顔合わせ

7月24日 事業説明と協力依頼

8月 9日 現地調査

14日 芦ノ牧温泉夏祭り盆踊り大会で「流しそうめん」 @芦ノ牧温泉街

15日 大戸町夏祭りで「流しそうめん」 @会津鉄道芦ノ牧温泉駅前

24日 子どもまつりで「流しそうめん」 @大戸公民館

9月 29日 竹活用講座とワークショップ

11月 3日 大戸町文化祭で「竹とんぼ」づくり @大戸小学校

11月～12月 住民アンケート調査

1月22日 調査報告会



3.現地調査：竹林の状況確認、試作

- とき：令和元年8月9日(金)
- 会場：大戸公民館周辺の竹林
- 内容：地域の方の案内で竹林の状況を確認し、竹の活用に向けて材質の調査、竹を切って加工、流しそうめんの練習を行いました



パイロット事業：「流しそうめん」による交流

- ① 芦ノ牧温泉夏まつり盆踊り大会
- ② 大戸町夏祭り
- ③ 子どもまつり



- 流しそうめんは、どの会場でも特に子どもたちに大好評でした
- 地域の大人が、楽しんでイベントを運営している様子も印象的でした

4.竹活用講座 & ワークショップ

- とき：令和元年9月29日(土)
- 会場：大戸公民館
- 内容：竹活用の専門家である会津大学短期大学部のシム・テークチン先生を講師に招き、大戸地区の竹の特性や活用の可能性についてアイデアを練る講座とワークショップを行いました



パイロット事業：「竹とんぼ」づくり

- とき：令和元年11月3日(日)
- 会場：大戸小学校
- 内容：先の竹活用ワークショップで出されたアイデアをもとに、大戸文化祭で竹とんぼづくりを行いました。造形ワークショップが専門の会津大学短期大学部の葉山亮三先生に指導頂きました



5.住民アンケート調査

期間：令和元年11月1日～17日

回答者：大戸地区全戸を対象にした悉皆調査

ただし、回答者の年齢や性別に偏りの出ないように、同一世帯の中の中学生以上で、誕生日が調査日に最も近い人に依頼

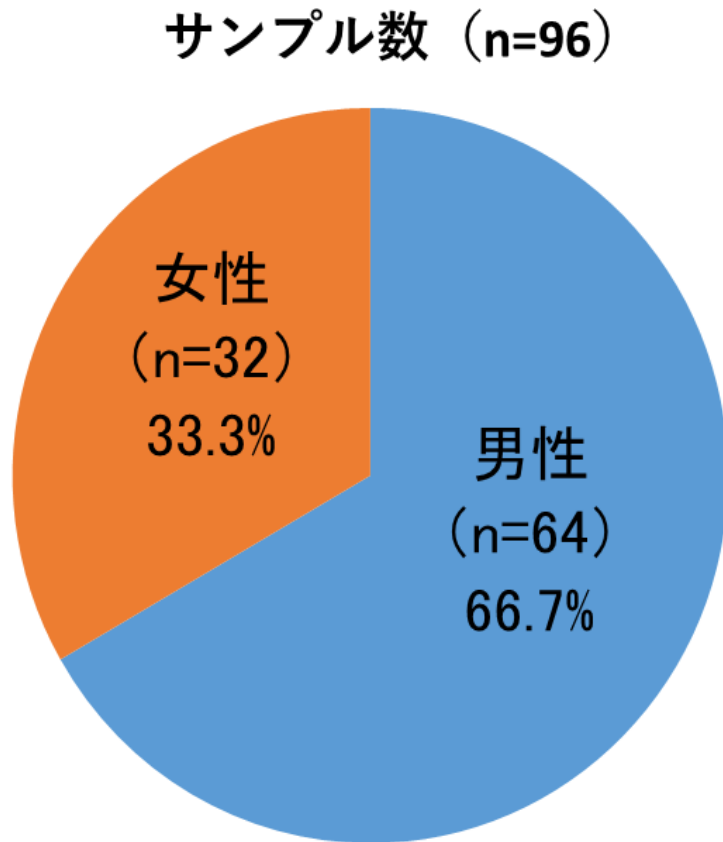
配布方法：各集落の代表者（区長）の方に調査票の配布と回収を依頼

回答数：111世帯

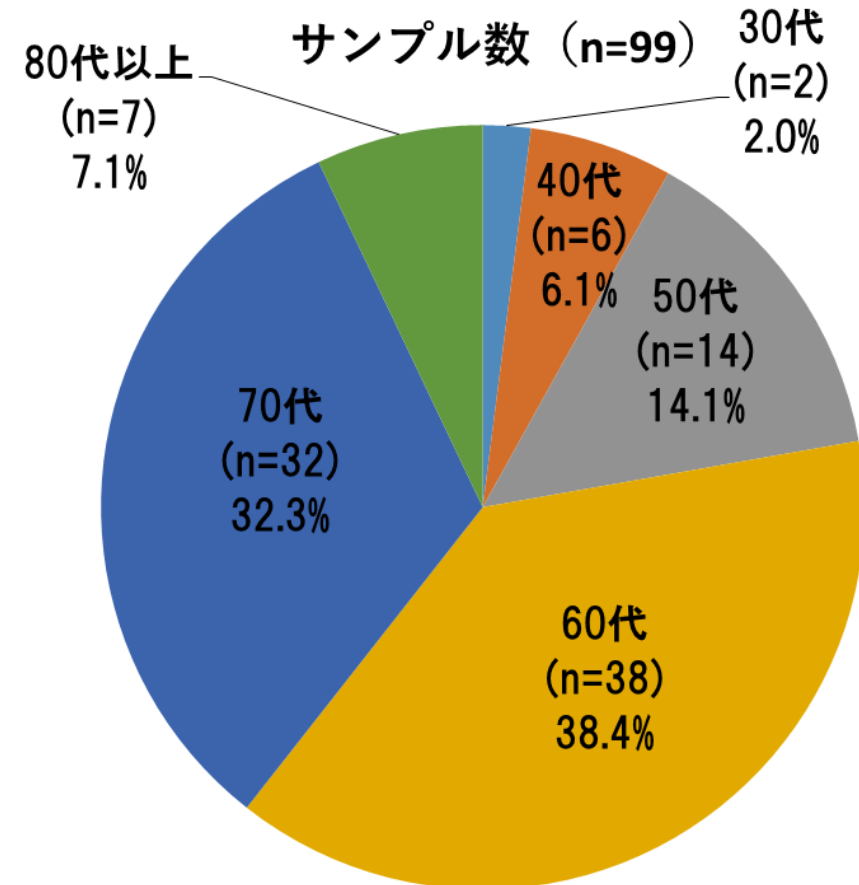
調査項目：区長会、大戸地区公民館、会津若松市、若松第3地域包括支援センターの方と意見交換しながら設定した

回答者の概要

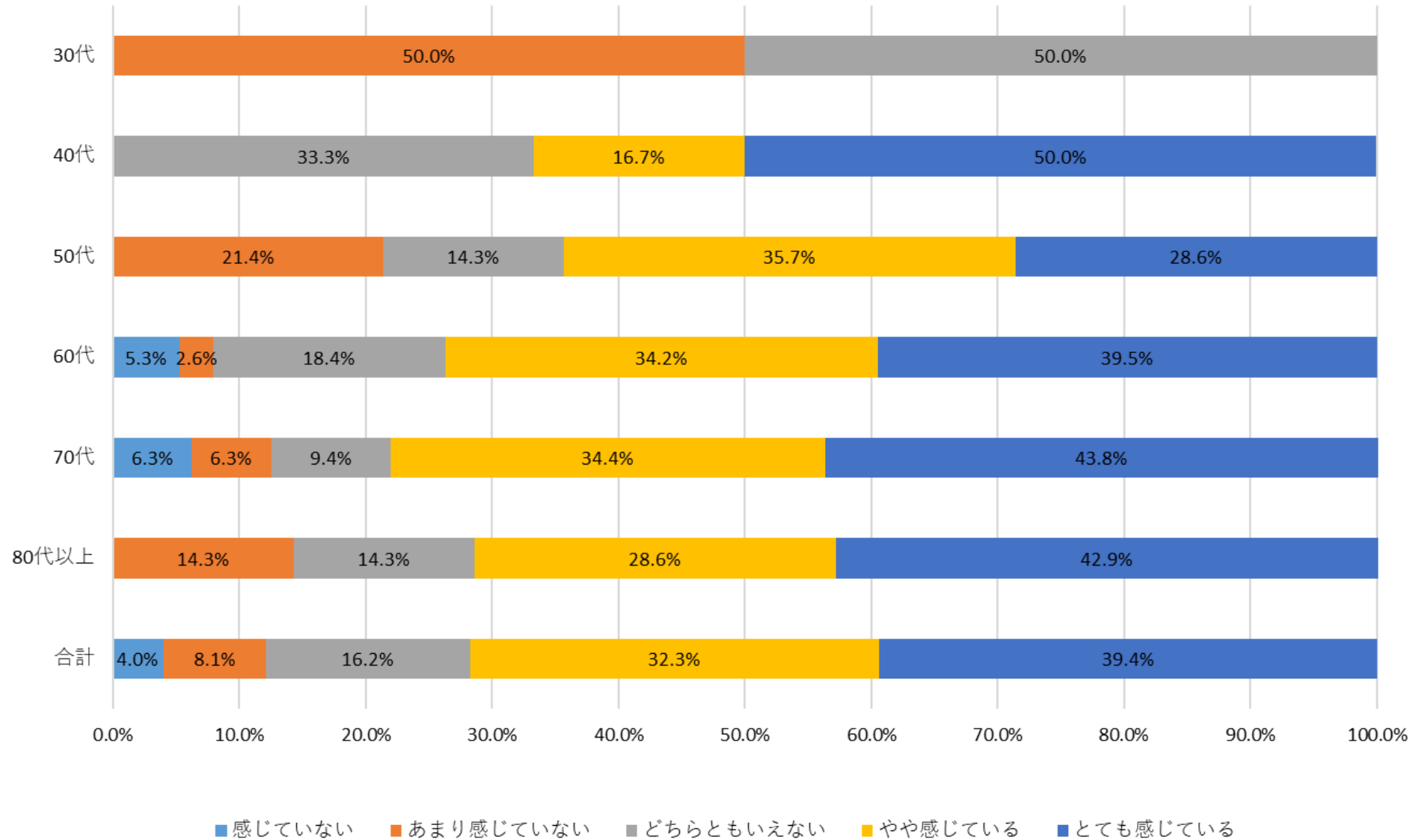
男女構成比



世代別構成比



地域への愛着



住民生活16項目について 満足度と重要度を分析

[3]医療

(4)防災・防犯

(5)見守り・介護

(6)保育環境

(7)教育環境

(8)公園・遊び場

(9)農業振興

[11]鳥獣害対策

(11)産業振興

(12)観光振興

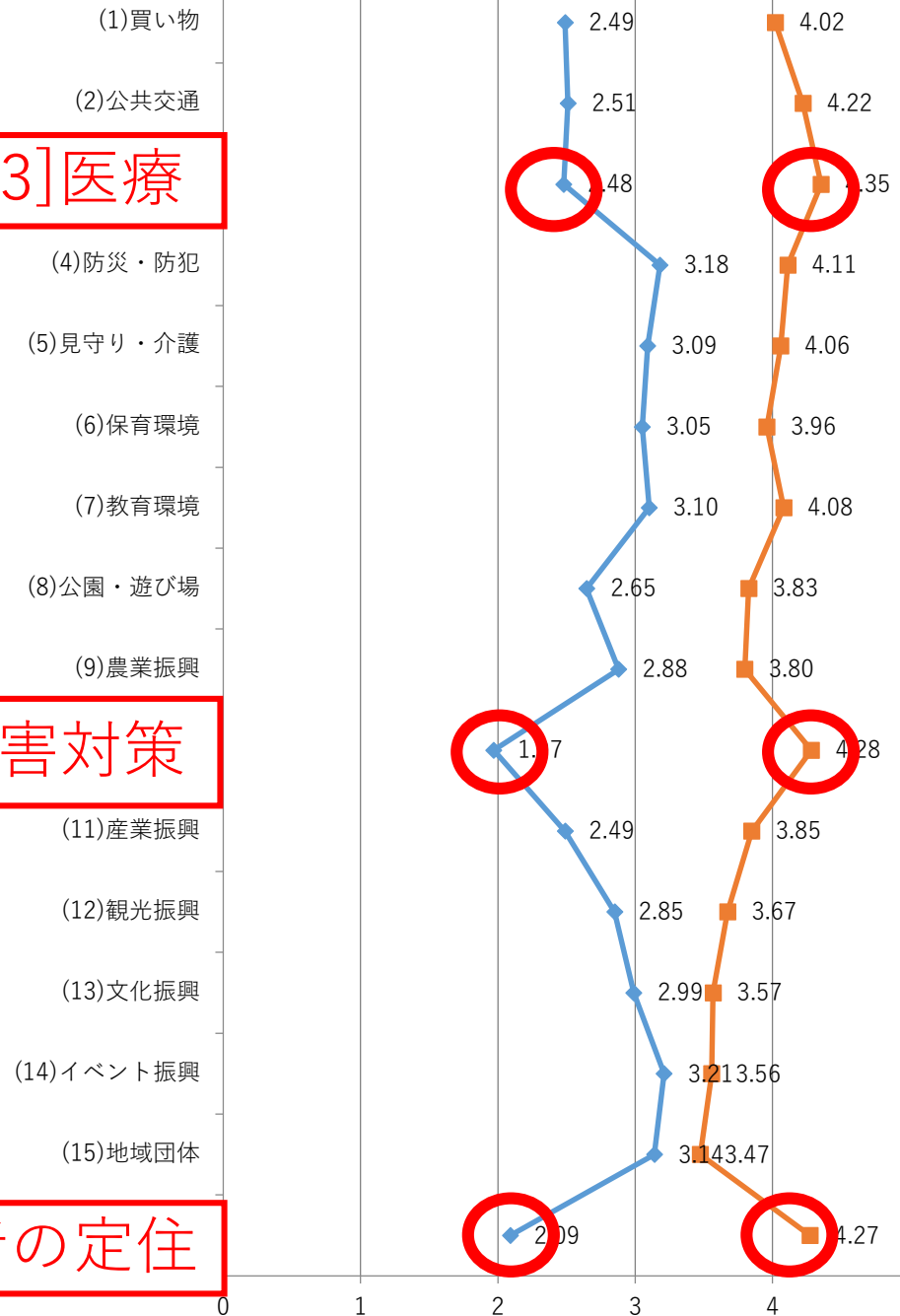
(13)文化振興

(14)イベント振興

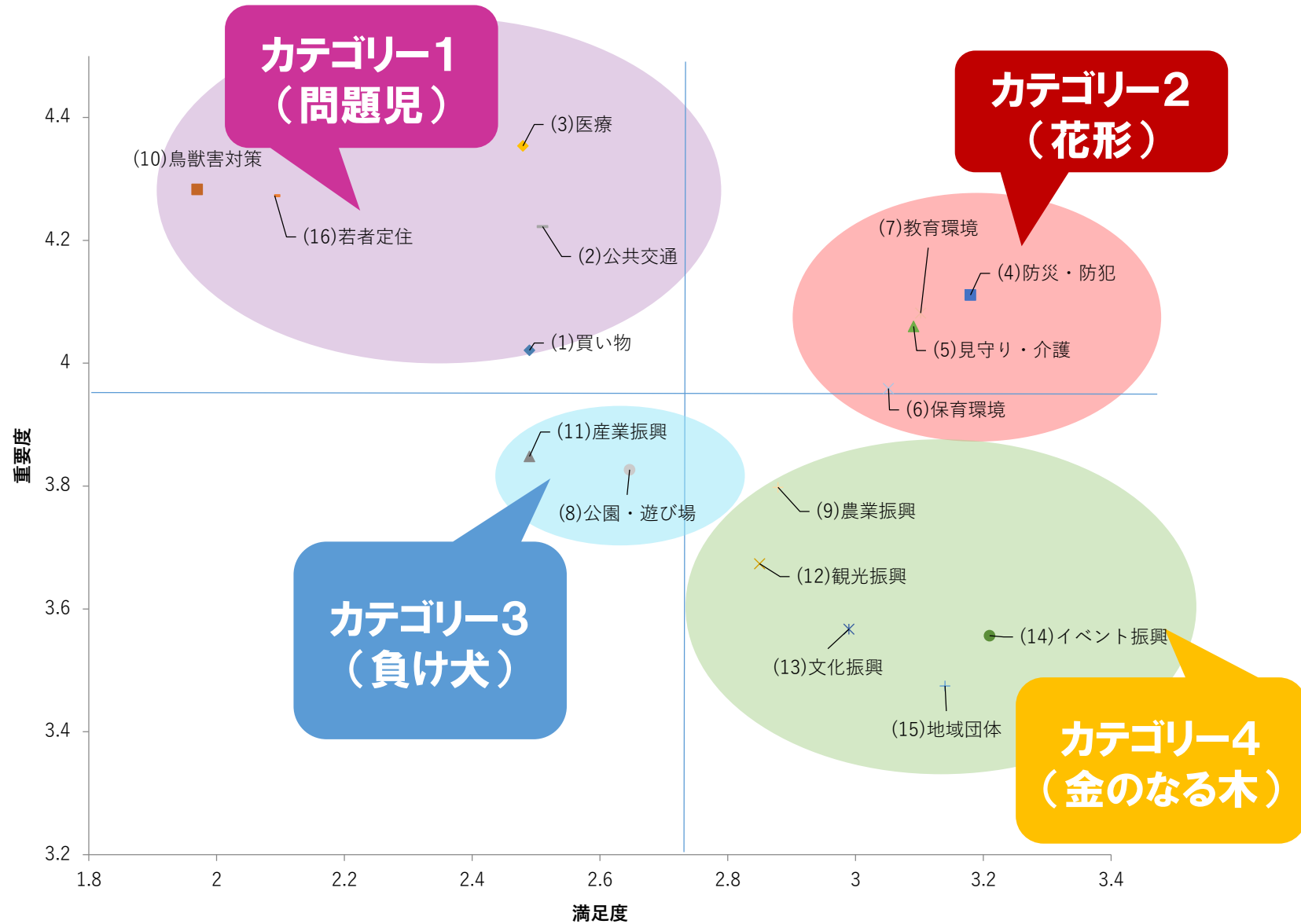
(15)地域団体

[16]若者の定住

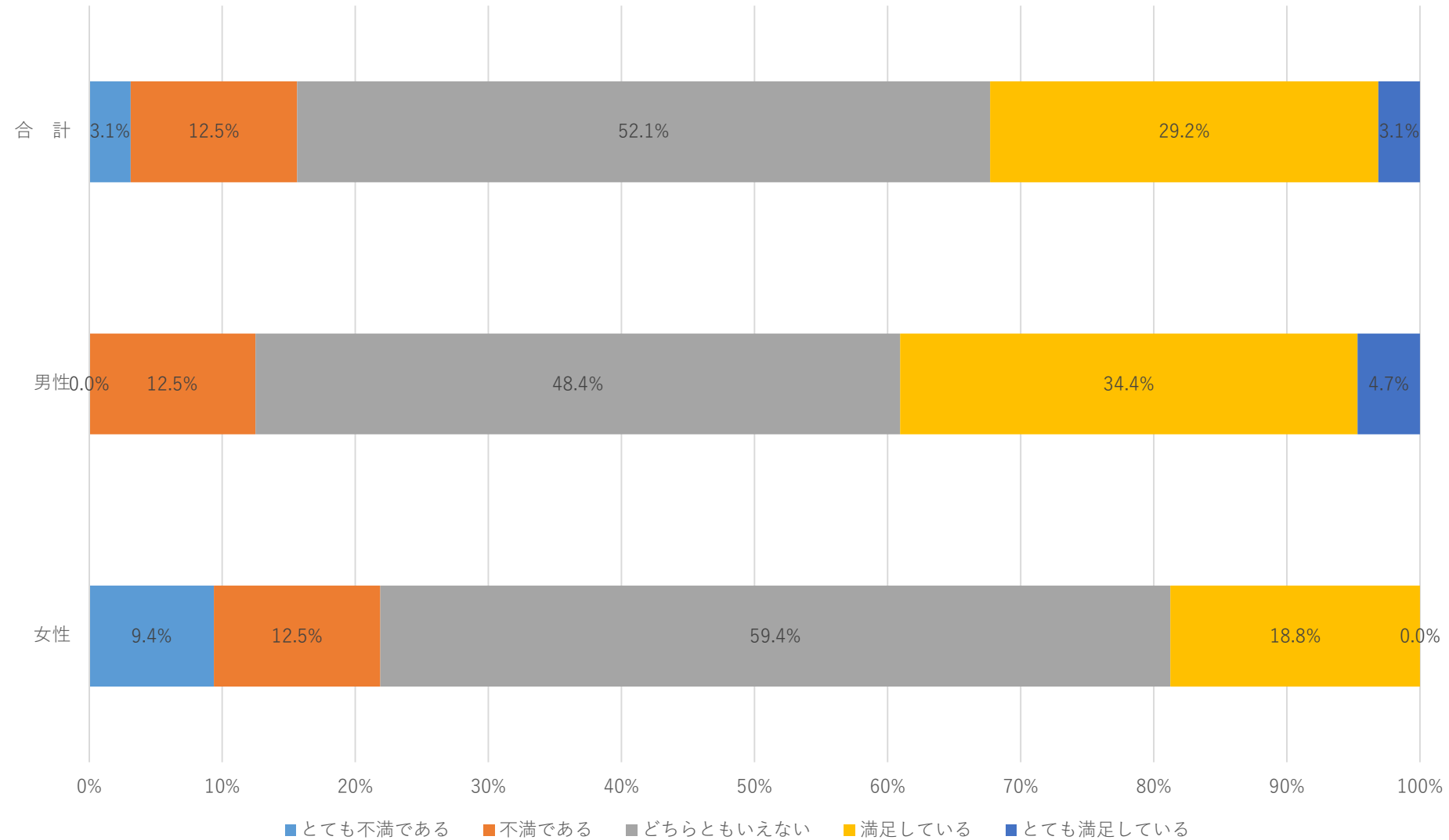
重要であるが
満足度が低い



住民生活16分野の満足度と重要度 (散布図)



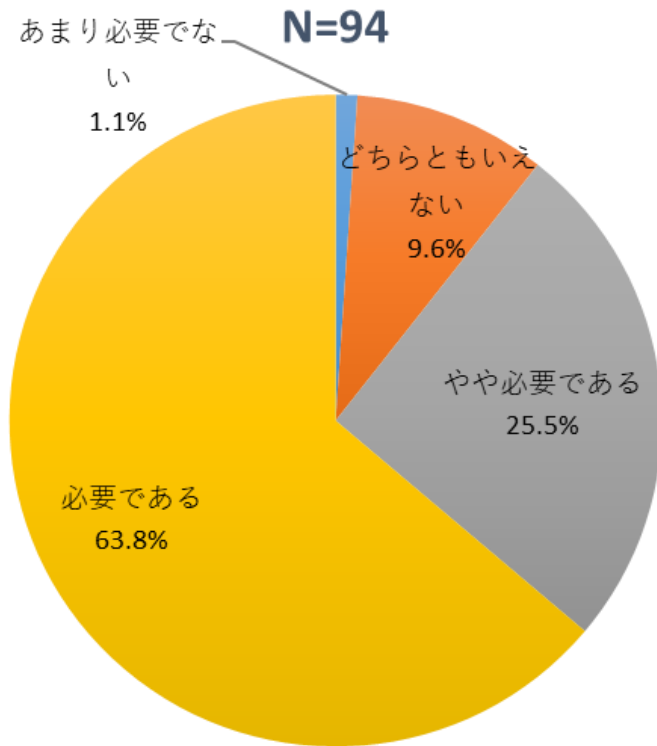
「防災や防犯活動」満足度



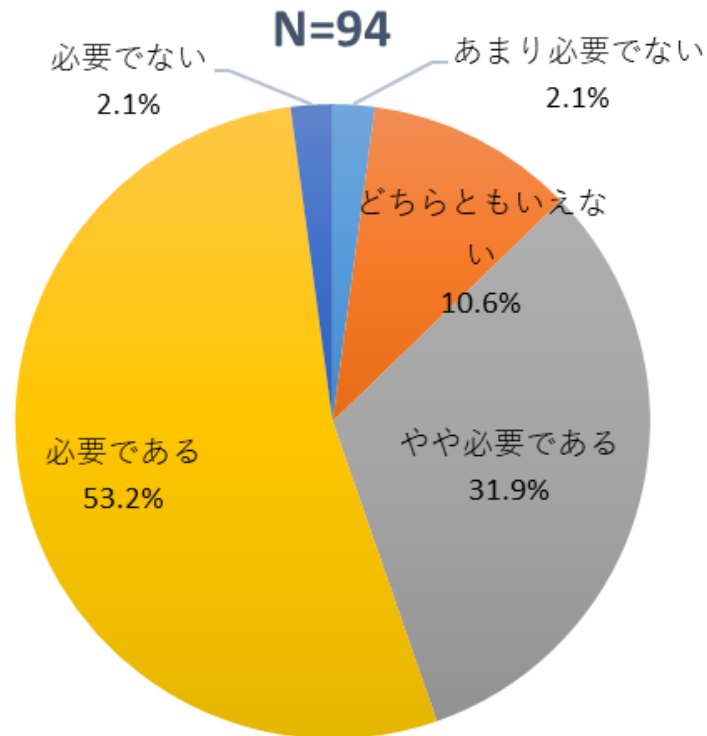
P=0.0444

地域での支え合い活動

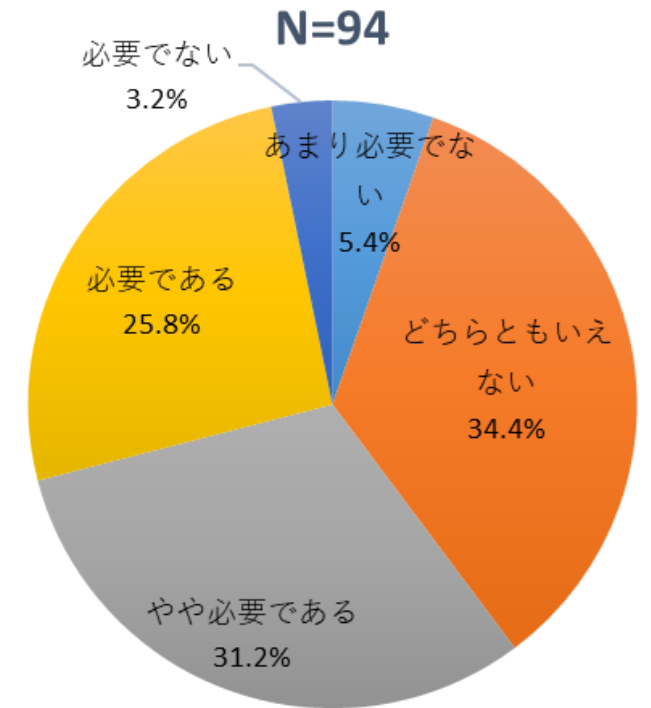
見守り活動 (声かけ・安否確認)



除雪支援



誰でも立ち寄れる 食堂や居場所



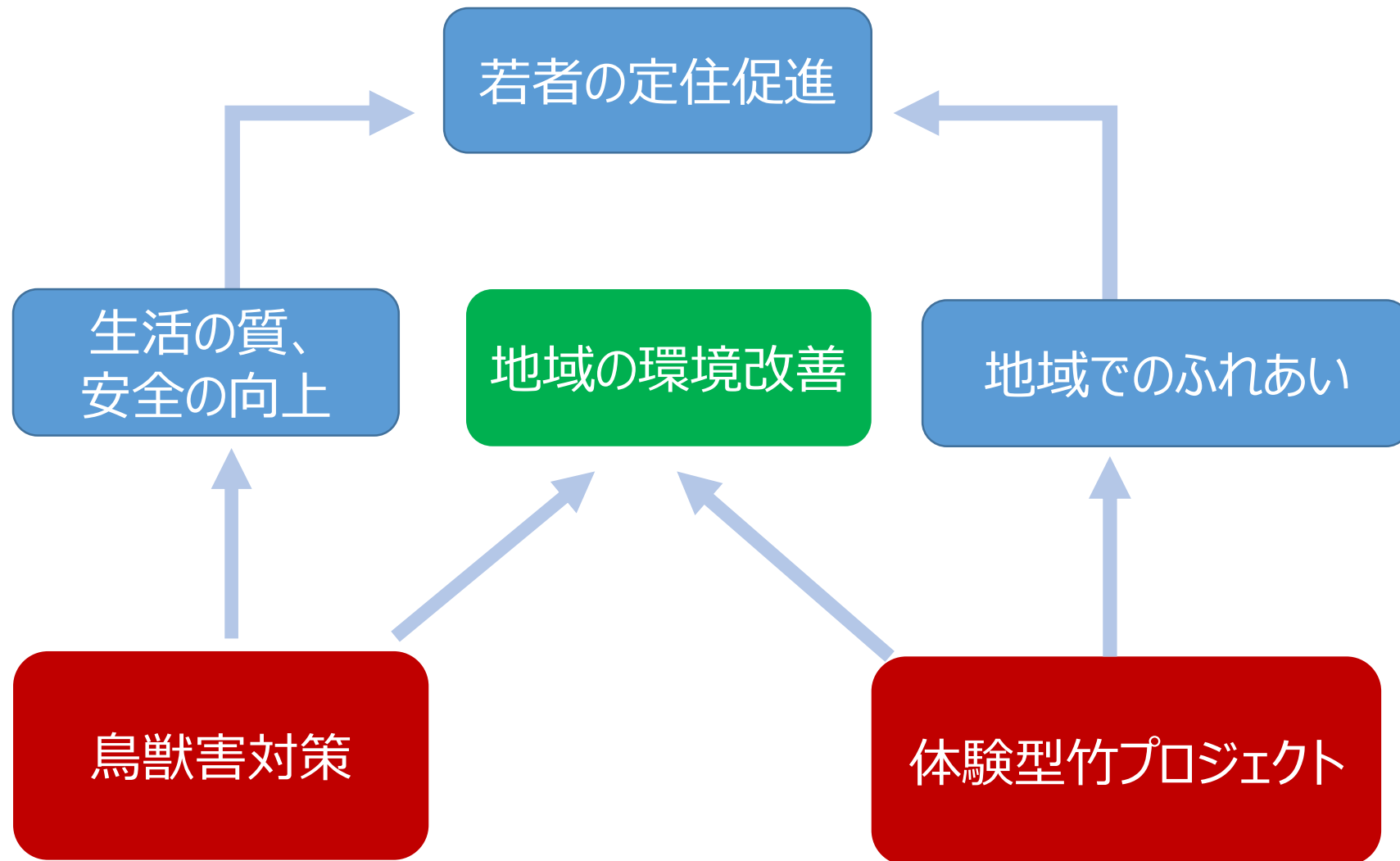
考察

- 最も関心の高い項目は、**若者の定住と鳥獣害対策**
- 一人暮らしが増えていて、近所での**会話や子ども達とふれあい**を望んでいる
- 防犯や防災に女性の視点**を取り入れることが、**安全・安心なまちづくり**に必要
- 若者が長く住み続けられ、愛着が湧くような環境に変えていくために、**将来を担う若者**が地域の**将来を真剣に考える場**が重要



調査報告会 2020.1.22

6.00TOプロジェクトが提案する活性化のシナリオ



プロジェクト案① 鳥獣害対策

- アンケート結果から重要度は高いが満足度が低いことが判明
- 「費用」である鳥獣害対策を「機会」にしたい
 - 猟友会の高齢化や後継者不足への対応
「狩りガール」に向けた研修
 - ジビエ料理の開発等、産業の振興へ
- 大戸の安全性を高め、定住者やUターン・Iターンの増加を促す

プロジェクト案② 体験型竹プロジェクト

- 大戸地区や地区外の小中高生を対象に、竹の伐採から加工まで
通年での体験型プロジェクトを行う
- 竹を使って笛や木琴などの楽器づくりにも、親子で取り組む
- 竹の講座・伐採・加工については、地元の方に加え、本学の教授や
学生、さらには企業にも協力を呼び掛ける